

きれいに暮らす 奈良県スタイルジャーナル

Vol.4

2018
March

～奈良らしい景観を目指して～



奈良モデルで取り組む高取町の景観づくり

高取城跡国見槽から大和を一望

城跡や森林を活かした魅力向上に向けて

平成25年度に策定した奈良県植栽計画で「城跡や森林資源を活かした高取の魅力向上」というコンセプトで高取エリアを位置づけ、高取城跡の魅力向上を図っています。散策路をより楽しめるように平成25年度からモミジの植栽や案内サインの設置を行いました。平成26年度にはボランティアも参加して二ノ丸周辺に桜が植栽され、春の彩り向上が期待されます。また、生長しすぎた木々の伐採や剪定を進め、眺望を良くすることにも取り組んでいます。

平成27年度に高取町と奈良県とは、まちづくりに関する包括協定を結びました。町と県とが連携協力をし、平成29年度には土佐街道周辺及び高取城跡周辺地区におけるまちづくりのコンセプトや将来像、基本となる取り組みを記載した基本構想を策定しました。

「日本有数の山城とその麓に築かれた城下町を一体的に体感できるまちづくり」～有数の文化資源や歴史的まちなみ（風景）を保存・活用したまちづくり～

このコンセプトに基づき、地区ごとに課題を見だし、今後まちづくりの具体的な方策を決めていきます。これまで取り組んできた高取城跡での植栽に加えて、まちの玄関口としてふさわしい壺阪山駅前を整備や土佐街道のまちなみ保存など、様々な取り組みが予定されています。

奈良県景観資産に登録されている土佐街道では、少子高齢化の影響もあり現在空き家が増加しています。空き家利活用のアイデアとして、子育て

から離れた女性を中心に人材育成をし、自らがおーナーとなる喫茶店などのお店を出店してもらえば、まちがもっと活気づくのではという案も出ています。

高取町

人口約6900人、世帯数約2860世帯からなる総面積約25.79km²のまち。奈良県の中央部に位置し、日本最大の山城、高取城がある地域として有名です。町内には、古墳が多くみられるのも特徴です。『日本書紀』には、676年に飛鳥川上流の南淵山（現在の高取山）の森林伐採を禁止する記述が残っており、日本最古の保安林的制度といわれています。



土佐街道（奈良県景観資産）

高取町まちづくり課長 吉田 宗義さんに聞きました

高取町は、明日香村に隣接し、歴史の舞台として建国当初から栄えてきた土地です。ゆったりとした時間の流れるこの自然豊かな町において、歴史、伝統を意識した景観整備は非常に重要であると考えています。

特に、日本三大山城に数えられる高取城跡は地元住民に深く愛されている史跡であり、城下町から城跡まで一体感を持たせた景観整備が、地元住民及び観光客の満足度を高めるにあたり必須事項であると感じています。

平成 29 年 4 月には城跡を擁する高取山風景林が「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されました。高取山風景林に国内外から人を呼ぶため、町や地元団体、有識者が協議会を設立し、今後の活用方策について活発に議論を行っています。



高取山風景林管理運営協議会 平成 29 年 11 月

四季彩りの高取城跡へ

冬の歌碑

初夏の石垣

秋の紅葉

吉野口郭 吉野口門

本丸虎口 本丸 天守台 小天守台

千早門 三ノ丸 七つ井戸

宇陀門 城代屋敷 大手門 二ノ丸 太鼓櫓・新櫓

壺坂口郭 壺坂口門

二ノ丸周辺に桜を植樹 (平成 27 年 3 月撮影)

生長しつつある桜と城跡の石垣 (平成 29 年 4 月撮影)

春日山原始林を未来へつなぐ



夏休みに開催した「親子で春日山原始林を歩こう」の様子

春日山原始林を未来へつなぐ会

奈良県は、「春日山原始林保全計画」を策定するため、平成25年に「春日山原始林保全計画検討委員会」を設置しました。関係機関や有識者が集まり、保全に関する検討が行われています。その中で、市民も協力して原始林を支えていくべきではないかとの声が上がりました。奈良県の呼びかけに応じ「春日山原始林市民連絡会」、「グリーンあすなら（巨樹巨木の会）」、「NPO法人奈良ストップ温暖化の会」の有志が集まり、「春日山原始林を未来へつなぐ会」を設立しました。現在、メンバーはシニアボランティアが中心となり活動を広げています。

普及啓発活動について

平成30年1月で16回目になる世界遺産春日山原始林観察会、鹿垣を巡る^①では、江戸時代のな

事務局長 杉山 拓次さん

私たちの会は多様な生き物たちが共生し、歴史や文化が息づく春日山原始林の姿を、次の世代へとつないでいくために設立されました。

原始林を体験してもらう自然観察会やエコツアー、奈良県と連携したナラ枯れ被害の調査・防除作業、また「つたえる」「まもる」「そだてる」活動を行っています。多くの方々に春日山原始林のことを知っていただければと思います。

らまち絵図に記された鹿垣を巡り、人とシカとの共生の在り方を考えました。

他にも、「野鳥の観察」「人間の歴史文化と春日山の繋がり」などテーマは様々です。講師には研究者の先生のほか、会員が得意分野を活かして担当しています。

観察会への参加を通じて、この森を知ってもらえればと思っています。原始林の現状を知ってもらうことはもちろんのこと、「活動へ参加したい」という方が増えていくことも重要です。

春日山原始林とは？

春日山原始林は春日大社の裏側にある御蓋山の奥に広がっています。標高約498m・広さ250haを持つ奈良市街地から最も近い大きな森です。ひらけた都市の近くに残る森は極めて珍しく、1955年には国の特別天然記念物に指定されました。

その後1998年には、世界文化遺産「古都奈良の文化財」として登録され、奈良の景観保全においても重要な役割を担っています。

原始林は、人の手が加わっていないと思われている方が多いの



地元小学生向けの校外学習の様子



ナラ枯れによる倒木



ナンキンハゼ



イロハモミジが美しい遊歩道



春日杉

ですが、実はそうではありません。841年に狩猟採採が禁じられて以来、原則手を入れてはいませんが、倒木などがあつた時にのみ森を支えることを繰り返していました。つまり、人の手によって原生的な自然が残されてきた森なのです。

春日山で起っていること

春日山を外から見ると、昔の写真とほとんど変わらない姿です。しかし、森の中へ入りよく見てみると、森が「健全ではない」ことが分かります。

①次世代を担う樹々がいない

春日山遊歩道を歩くと、森の斜面からかなり遠くまでを見通すことができます。よく見ると地表部分には、ほとんど植物(下草)が生えておらず、根が露出している様子を見ることが出来ます。下草が生えていないと土砂の流出や倒木が頻発するなどの危険も考えられます。

②シカとの共生

歴史上、春日山には狼や野犬が生息していた

ことから、シカは春日山ではなく、公園部分を中心に生息してきたようです。戦後、激減した後、手厚く保護されて頭数を増やし、天敵となる狼や野犬がいなくなった春日山に生息するようになりました。シカが、木々の新芽や若木、下草などを食べることで、森が変化してきます。

③ナラ枯れの拡大

カシノナガキクイムシが樹の中に入り枯らししてしまう「ナラ枯れ」の被害が拡大しています。

④ナギ・ナンキンハゼの拡大

ナギ・ナンキンハゼはシカが好まない植物です。そのため、本来一部でしか確認されていなかったこれらの植物が、分布を拡大し春日山原始林の環境を変えていく恐れがあります。

ウェブサイトのご案内

春日山原始林を未来へつなぐ会ウェブサイトでは、活動ブログをアップしている他、Facebook を活用して、原始林の情報を発信しています。ぜひご覧ください。

公式ウェブサイト

<http://kasugatsunagu.com>

Facebook ページ

<http://www.facebook.com/kasugatsunagu>

吉野線華いっぱい計画

近畿日本鉄道(株)



植樹されたユキヤナギ (吉野駅)

近鉄南大阪線・吉野線観光特急「青の交響曲(シンフォニー)」の運行にあわせ、平成28年より吉野線を紅葉や季節の花で華やかに彩る「吉野線華いっぱい計画」が実施されています。これにより、沿線地域に新たな観光資源の創出が期待されています。

沿線観光地

吉野線沿線は、1400年前を感じる古代ローマの地・飛鳥や修験道の聖地・吉野など魅力的な観光資源にあふれています。桜の名所として古くから知られる吉野山や修験道の開祖、役行者が開いたといわれる金峯山寺は「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産として世界遺産にも登録されています。

雄大な自然や歴史、文化に触れるとともに四季折々の沿線風景を楽しんでいただきたい。一年を通してより賑わうような四季彩りの景観づくりを。そんな思いから計画がスタートしました。

吉野線華いっぱい計画

第一期として、「ユキヤナギ・ドウダントツジ・モミジ・アジサイ・ヒガンバナ・スイセン等」合計1万本もの樹木を植樹しました。「吉野は桜。というイメージに捉われず、モミジのトンネルを作りたい」という思いを実現すべく、特に福神駅〜薬水駅区間には、平成29年に実施された第二期植樹分を合わせると、約1kmにもわたって約870本のモミジが植えられました。「車窓から見て花の景色やモミジを楽しんでもらいたい」。モミジがいずれ大きくなり、モミジのトンネルをくぐり

抜け、車窓からたくさんの花々を見渡せるような路線を目指して計画は進められています。

花が植わるまで。手入れ。

計画を立てる際、その土地の地質や環境にあった植物を植えるため詳細な調査を行いました。その環境に合った花や樹木を植え、吉野線のそれぞれの場所を彩ります。広い範囲の草刈りが、年に3、4回は必要です。

駅のホームに止まった電車から窓を覗くと、ちょうど目線になるよう花々が植えられています。植えられた花を見て楽しめるように工夫が凝らされているのです。春は右側の窓から、秋は左側の窓から。訪れた人が季節を変えていつでも楽しめるようにと、植栽・手入れをされています。そんなおもてなしの思いを感じながら吉野線の旅を楽しんでみて下さい。



モミジの景観づくりが進む吉野線沿い (平成29年11月撮影)

住みたくなるきれいなまちづくり

生駒市鹿ノ台 ECOKA 委員会



美しく管理されている鹿ノ台のメインストリート

ECOKA 委員会

鹿ノ台地区は面積 122 ha 約 8000 人が住む大きな住宅地です。11 の自治会から構成される連合自治会には様々な委員会が立ち上げられ、協力し合いながらこの地域を守っています。花壇の維持管理をする「美化推進委員会」。地域の見回りをし、安全を守る「青色防犯パトロール委員会」。そして、緑地の整備や、植樹活動を行っているのが「ECOKA 委員会」です。

12箇所の緑地の整備

住宅地周辺には、総合計約 12 ha にも及ぶ 12 箇所の緑地があります。中でも、地域の北側に位置する総面積 35 ha もの大きさを持つ第 2 緑地は 6 年前まで全体が竹林に覆われていました。そこにあつた、大量の大きな竹を切り開き、花木に植え替えまし

ECOKA 委員会
山田 勲さん



生駒市鹿ノ台地区は造成から約 40 年たちます。住宅地を囲む緑地が、いわばジャングル状態にあったことから、平成 20 年より緑

地の整備に取り組んでいます。整備した緑地を住民の交流の場、楽しみ場として活用できるようになってきました。高齢化が進んでいますが、みんなで一緒に活動していると、どんどん元気になっていきます。平成 29 年 12 月には「第 5 回グッドライフアワード」環境大臣賞を受賞し、ますます活動への意欲が高まっているところです。

た。今では緑地の下にはせせらぎが流れていて、ホテルの生息を目指す活動も行われています。この活動も今年で 4 年。ひらりと舞うホテルが見られるまでになりました。

また、整備の際に出た間伐材を利活用し、椎茸の栽培もされています。幼稚園には、里山で獲れる椎茸をはじめ栗、芋、柿などを収穫してもらったり、地域環境や里山管理について地元の小学生に体験学習してもらう活動もし、環境教育の場も整えられています。

人が住みたくなるまちづくりを目指して

地域の方々と共に整備した緑地を歩く、「森林観察会」を実施されています。平成 29 年 2 月に行われた観察会では、参加者総数 121 名にも及ぶ会となりました。実際に住民の方に歩いてもらうことにより、地域の地形や自然を実感してもらうことができ、安全への取り組みや、季節を感じる楽しみへとつながります。みんなが住みたくなるまちの条件は「住環境・利便性・教育環境」に大きく左右されると考えられています。ECOKA 委員会は、それらの環境を整え、自分たち住民の力で新住民を受け入れる準備をされています。「住んでいる人の力で地域を守る」そんな思いが強く感じられました。



未利用地に植栽しオープンガーデンとして活用

奈良県景観資産の紹介



奈良県景観資産を訪れてみませんか？

県内の素晴らしい景観、守りたい景観を、テーマを定めて一般公募の上審査し、161点を奈良県景観資産として登録しています。

奈良県ホームページ「奈良県景観資産総合案内所」をご覧ください。お出かけ先にぜひご検討ください。

http://www.pref.nara.jp/keikan_shisan/



御杖村 岡田の谷の半夏生園



亀田公園 岩瀬橋から眺める三室山

奈良時代を今に感じる平城宮跡歴史公園が 平成30年3月24日(土)に開園

“奈良時代を今に感じる”をテーマとした「平城宮跡歴史公園」が3月24日開園します。

朱雀門の南側エリアに“朱雀門ひろば”がよみがえり、復原された平城京のメインストリート朱雀大路を中心に「にぎわいの空間」が誕生します。ぜひご来園いただき新しい奈良の観光スポットをお楽しみください。



【お問い合わせ先】

● 平城宮跡管理センター TEL : 0742-36-8780 ● 平城京再生プロジェクト TEL : 0742-35-8201

【ホームページ URL】

● 平城宮跡歴史公園開園 URL : <https://www.heijo-park.go.jp/>

※平城宮跡歴史公園へは公共交通機関をご利用ください。



HP「奈良県植栽計画について」
<http://www.pref.nara.jp/35018.htm>

きれいに暮らす 奈良県スタイルジャーナル 第4号

2018年3月発行

発行

奈良県くらし創造部 景観・環境局 環境政策課

〒630-8501 奈良市登大路町30

TEL : 0742-27-8732

FAX : 0742-22-1668